

神界の自分との一体化

内容

神界の自分との一体化	1
初めに神の世界あり	1
生物の進化	2
すべては波動の集合体.....	3
あらゆる世界に物質がある	4
人間はみな本当は神界にいる	4
肉体人間観を超える	5
たゆみなく消えてゆく姿を行じる	6
常に神のみ心の中に想いをおく	7
いいこと明るいことのみ思う	8
神界にいる自分と一つになる	9

初めに神の世界あり

宗教は何を目指しているかと申しますと、想いの世界から神様の世界に、人間を送りこむことなのです。神様のみ心と人間の心とが一つになるように、いろんな道を説いているのが各宗教なのです。

そこで私が一番大切にしているのは何かというと、やっぱり想念の在り方ということです。常日頃から想っていることが、自分の運命として現われるのです。それも今生だけではなく、前の世、ずーっと過去世から肉体がこの地上界に生まれたその初めの時から、人間の世界というのはあるのです。初めから肉体があるんじゃないありません。

神様のみ心があって、宇宙神が森羅万象を創るわけです。あらゆる星をつくり、あらゆる物質をつくり、その中で人という神の分け命、神自らの生命力、創造力を分けて人間というものがつくられているわけで

す。

人間は初めに肉体界にあるのではないのです。初めに神様のみ心の中にある。いわゆる神霊として、神の命そのままとして各種に分かれた。神道でいえば八百万(やおよろず)の神です。一神にして多神。宇宙神が一つあって、多神に分かれた。初め神霊の世界にありました。人類のもとを私が直霊(ちよくれい)といっています。それが各種に働いているわけです。そして地球の人類が出来たわけです。

地球というのは物質界です。はじめは微妙な波動の神霊がありまして、だんだん幽波動、肉体波動、いわゆる物質波動になりまして、この地球などが出来ています。古事記にも書いてあります。鉾(ほこ)でもってかきまぜて、国を生み、島をつくったりしています。ああいう物語は真実のことで、鉾でやったというのは象徴ですけど、いろんな形で国をつくるわけです。

生物の進化

地球が出来て、そこに物質人間というものが現われてくるわけです。初めに何が出来たかということ、原始生命体が生まれた。アミーバーのような単細胞の生物が出来るわけです。神様の力で生まれているわけです。比喩的にいえば、神様がいろいろと試してみる。初めに単細胞を作ってみた。これじゃ面白くない、もう少し違ったものを作ろう、だんだん複雑なる細胞群をつくった。昆虫をつくった。魚をつくった。また鳥をつくった。獣をつくった。いろいろな動物を作ってみた。これは少しはうまく出来た。もう一寸うまいのもつくろうと猿が出来た。猿の顔を一寸直し、もう少し頭をよくして、という形で、だんだん力を加えてゆくわけです。そして最後に出来たのが人間なわけです。

ですから人間というものは、物質的、肉体的にみれば動物の進化したものです。猿から進化したというダーウィンの進化論はたしかに本当なわけです。ところが肉体を動かしている生命というものの、生命力、知恵、創造力というものは、肉体にあるのかということそうではない。神のみ心の中にある。霊なる命がそのまま創造力であり、智恵であり、あら

ゆる能力の源泉であるわけです。それが肉体の中に入っている。という
と真実はおかしいんだけど、まあ中に入っていると表現しておきま
す。中にいて動かしている。

すべては波動の集合体

人間には脳があります。脳には大脳とか小脳とかあります。この脳の中
に働く力が入っているわけです。この脳というのは形からみると体で
しょ。そうすると形の中にあるみたいでしょ。ところがこの肉体という
のは波動なんです。波動が現われてこの形に見えるだけです。肉体の五
感でみるとこの肉体の形に見えるだけなのです。ところがもっと微妙な
目でみれば、こういう形のものではなくて、波が集まっている。

私がいつも話しますけれど、机はかたいもので固体に見えますね。し
かし固体だけれど釘なら釘、刃物なら刃物をさしますとささってしま
います。どうして固いものなのにささるのか。それは原子と原子の間があ
いているからなんですね。隙間があるからです。空間があるわけです。
原子のもとには陽子と電子、陽子はいわゆる素粒子で出来ています。目
に見えない。電子顕微鏡で見えるものもあるし、見えないものもあり
ます。そういう微粒子が集まって働いている。

もっと細かいところでは、私たちは宇宙子というんです。それは今、
研究しています宇宙子波動生命物理学というものの基礎です。この宇宙
子にはプラス、マイナスがありまして、その中に物質となるべき宇宙子
もあれば、精神として働く宇宙子もあって、精神宇宙子というのが非常
に重大な役目を持っているわけです。宇宙というのは碁盤の目のよう
になっているんです。何故かという縦のプラス性と横のマイナス性とが
組み合わさっているから、碁盤の目のような動きになっているわけね。
縦の働き横の働きが交叉している。縦と横の働きが常に角度を転換しな
がら、場を変えていって、いろんな物質が出来るわけです。

縦の働きが大まかにいえば精神ですね。横の働きが大まかにいえば物
質です。だからこの肉体の五感の世界に見える、三次元の世界に見える
物質だけが物質ではなくて、幽界にも物質があれば、霊界にも物質があ

れば、神界にも物質があるんですよ。それを大体そう思わない。物質というこの目に見える五官の世界だけに、物質があると思うのです。

あらゆる世界に物質がある

ところが実際、霊能のある人たちが、目に見えない世界にちゃんと神様の姿も見られれば、富士山のような山もみえれば、川も海も見えるわけなんです。見えるということは何かというと、物質なんです。生命というのは、精神というのは見えないんです。感じるだけで見えません。ところが霊界と神界とでは見えるわけです。幽界などは勿論見えます。霊能のある人は見えるわけです。

目に見えるものは物質なんです。だから肉体世界ばかりではなく、あらゆる世界に物質がある。ただ同じ物質でも波動が微妙な物質なわけです。霊界、神界の物質はもっと霊妙な物質です。私なら私が肉体の粗い波動の物質体をまとして、この机の前にいます。と同時に、神界にもっと微妙なる波動の五井先生が向こうにちゃんといるんですね。それがいろんなふうに変化していますけれども、微妙極まりない光明燦然たる姿をしている。皆さんもそうなんです。

人間はみな本当は神界にいる

皆さんもこうやって道場に坐っていらっしゃるでしょ。鼻の低い人もある、高い人もある。目の大きい人も小さい人も、頭のはげた人も毛の多い人も、いろいろあるわけです。ところがそういう皆さんとは全く違う、中味が全く違っている、純粋なきれいに磨きこんだ、光り輝いた皆さんが向こうにいます。なのに皆さんは気が付かない。私は気が付いている。

自分がこう肉体にいながらも、神界にちゃんと自分がいる、と私は知っています。修行中に知ったのです。本体と合体してそのまま降りて来ていますから、向こうもこっちも自由に行ったり来たり出来るわけです。皆さんが亡くなって、肉体を地上に置いて、霊界へ魂がいきますね。五井先生っていえばパッと五井先生が現われる。五井先生というの

は肉体にいるのに、なぜ霊界で五井先生って呼んだら先生が出てくるのか、その五井先生というのはなんだ、という質問がくるそうだけれど、やっぱり五井先生。ただこの中にあるけれど、もっと微妙な精妙化された光明燦然たる五井先生というわけです。それは私ばかりではありません。皆さんもそうですよ。

皆さんも肉体にいますけども、神界にもいるんです。それをわかるために統一が大事なのです。何故お祈りするか、統一するかというと、それがわかるためなんです。統一するということはどういうことか。自分は肉体の人間である、という想いが赤ん坊の時からあるわけですね。肉体の人間だと決めてかかっている。自分は波動体だ、と思っている人はいないでしょ。自分は光明燦然たる光の玉だ、なんて思っていないですよ。頭では聞いていますけれども、話には聞いているけれど、この肉体が俺じゃないかと思うのです。

肉体人間観を超える

目に見える五官というものが仮りにあって、仮りにこういう形に見えるんですよ。蟻から人間をみたらどんなに見えるかわかりません。犬から見たってどう見えるかわかりませんよ。犬はちゃんとご主人をしたってくるけれど、あれは目で見ているのか、やっぱりこういう顔に見えるのかどうか、犬に聞いてみないとわかりません。うちの犬は違うといっています。

彼らは人間の肉体をみているわけではなく、波動を見ているわけです。そういう点では犬のほうが微妙です。ところが人間というものは、肉体をまもってしまうと、目で見、耳で聞き、手でさわらなければわからないんです。ああこれは机だな、と目で見、手でさわってわかる。ああこの人は誰だなんて見るわけです。

私の場合は一寸違うのです。この間外国から帰って来た女性歌手の人がいます。向こうで相当活躍していて、日本へ帰って来て忽ち第一線に出ているのです。その人が音楽会をやったのです。私に来てくれといわれたけれど、いかれなかった。行かなかったからわからなかったという

とそうでない。私には歌っているのがわかっている。高いところがとても素晴しくて、あのアリアがとても素晴しかった。こういうふうにもうまかった、とあとで会っていうと、その通りなのです。講釈師みて来たような嘘をいい、というけれど、私は見て来ているのよね。

肉体はここにいるんだけど、ちゃんと向こうへ行っている、聞いているんです。肉体だと思っていれば関開けませんよ。東京上野の文化会館でやっている音楽を、市川にいて聞ける人はあんまりいないでしょ。ここにいて、ふっと聞けば聞けちゃう。何が聞いてくるのか、肉体が聞くんじゃないです。何が聞くんでしょうね。不思議でしょ。

中の自分の本体は五尺何寸なんて小さくないんです。宇宙大にひろがっているんですから。上野だって目比谷だって、アメリカだって、どこだってそんなこと関係ありません。地球中わかっているわけです。要するにテレビジョンの受像器がここにあるわけです。スイッチをひねりさえすれば、どこで演奏していたって聞こえてくるわけです。何もわざわざアメリカへ聞きに行かなくたって、ちょっとひねりさえすれば聞こえるわけ。そういう便利な体というわけです。

たゆみなく消えてゆく姿を行じる

それはどうして出来たかという、自分は肉体だと思っていないわけですね。肉体はここに仮りにあるんであって、真実はここでないことを、さんざんの修行で知っているわけです。だから一寸(ちょっと)ひねりゃわかる。便利でしょ。今にみんなそうなりますから。

ところが心が出来ていない場合には、まだ魂がきたえられていない場合には、そういうことがわかると、大変なことになるのです。たとえば一つの波なら波をバツと受けてしまって、その波にやられてしまう。あるいは自分で捻りたくないのに捻られちゃって、どこからか急に聞こえて来たり、見えたりする。幽霊なんか見えたり、向こうの想いがかぶさったりする。そうすると肉体を解説していないんだから、とても苦しむわけですね。

単にそういう現象的なことがわかる、目に見えないものが見え、耳に

聞こえないものが聞こえ、遠くのものが見えるということは、非常に便利だけれども、こうなるためにはとても苦労がいるわけです。そこで苦労がなくて、しかも肉体人間観をこえて、神霊の人間に肉体を持ったまままでなれる方法はどういうものかという、それはたゆみない消えてゆく姿なのです。

何が聞こえて来ようと、聞こえて来なくても、人が悪口言おうと、褒めてくれた時は喜んでいいけれど、どんなことがあろうと、自分の都合の悪いことがあろうと、自分の中から都合の悪い想いが出て来ようと、サァみんな消えてゆく姿なんだ、自分は神様と一つなんだ、自分は守護霊守護神と一つなんだ、という信念を強める。あらゆることを消えてゆく姿にして、神様と一つなんだ、と思う。ただそれだけ。神様の中にいるんだ、というそれだけの想いの中にいることです。

常に神のみ心の中に想いをおく

神様のみ心の中に、自分の想いをいつも置いておくということです。具体的にどういうことかという、例えば大工さんであれば、カンナで削る時にああこれは神様がやっぺらっしやるんだ、納豆作りの人であれば、有難うございます、神様がやっぺらっしやるんだ、銀行員ならお金をかぞえお金を渡すのも、神様がやっぺらっしやるんだ、ということです。神様から神様へ渡し、神様から神様へもらい、すべてを神様同志の取引、神様と神様がつき合っているんだ、というような観念になる、これが一番なんです。それがこの世が神様の世の中になる、この世が地上天国になる一番の方法なんですよ。

誰も彼も神様の中にいれば、神様は原爆を落としちゃうわけはないですからね。このヤロウバカッ、となぐってしまう神様はいない。あの奴死んじまえばいい、なんて思わないです。とにかくみんながよくなるように、という心が神様の心です。すべての人が幸せになりますように、というのは、神様の愛の心です。そういう想いの中にいつもいればいいわけでしょ。

それを単刀直入に言えば、世界人類が平和でありますように、日本が

平和でありますように、私どもの天命が完うされますように、みんなが幸せでありますように、ということです。みんなが幸せでありますようにという想いで、守護霊さん守護神さん有難うございます、という想いでいれば、神様の中にいることになるでしょ。

一回か二回言ったってしょうがない。寝ても覚めても言うんです。眠る時でもいい、お便所の中でもいい、歩いている時でもいいから、世界人類が平和でありますように、と祈る。なんか嫌なことがあったら、ああ消えてゆく姿だ、あらゆることを消えてゆく姿だと思って、ただひたすらに平和の祈りをし、いいことばかり思うんですよ。

いいこと明るいことのみ思う

未来のいいことを思うのです。今は貧乏しているけれど、今にみても、オレは六十五だけれど九十才まで生きればまだ二十五年もあるから、これからだってお金がもうかる、そんなはしたないことは思わなくていいから(笑)具体的に、自分の欲して人も欲する、自分も人もいいようなことばかり思うんです。完全なことを思うということは、やっぱり神様のみ心に合うのです。神様は完全円満です。何一つ神様に出来ないことはないわけです。

ところが神様が肉体の人間の中に入ってくると、肉体の人間は肉体だと思いこんでしまうので、出来なくなってしまう。本当は何んでも出来るわけね。

常に肉体の中にいるから、胸が痛いナ病気かしら、頭が痛いナどうかしら、ああ咳が出るダメかしら、足が痛いナンダカンダといちいち肉体の変化についていっちゃうわけね。親が四十二で死んだから私も四十二で死にやしないかしら、親が癌だったから私も癌にならないかしら、そういうふうに思っている人がありますよ。親の命日は十月三十日だから、だんだん近づくに従って、私もダメじゃないか、親に義理を立てて、親の死んだ日に死ななくたっていいですよ。ところがそう思う人があるんですよ。なんでも悪いほうへ悪いほうに思う。いいほうに思うのはいいですよ。親が九十まで生きた、私はどんな病気をしたって九十

まで生きる、というのはいいいけれど、悪いことばかり思う人があります。

すぐ悪いことばかり思うくせの人がありますが、そういうのはやはり消えてゆく姿と思って、消さなければいけませんね。悪いことを思ったらすぐ消えてゆく姿。憎い奴がいて、あいつ死んじゃえばいい、と思うことはいいことではありません。生き死には守護神さんの権限だから、守護神さんにまかせておけばいい。自分に都合の悪い奴はいないほうがいいでしょう。会社でも、上役に都合の悪い人がいますと、あいつどこかへ転勤しないかな、病気にでもならないかな、いい案配に病気した、なんて思うのは愛じゃありませんよ。自分勝手でしょ。

神界にいる自分と一つになる

お互いに都合のソロバンをはじいてはダメです。想いのソロバンをはじかないで、今現われてくることは皆、過去世の因縁の結果が現われてくるんで、いいことが現われてくるのは過去世の徳が現われて、自分に返って来たのだし、悪いことが現われたのは過去世の不徳、徳を積まなかったものが返って来ているのだから、あらゆることが今現われていることは、今やったことではなくて、過去世から現在にいたるまでの業想念が現われて消えてゆく姿です。

今出て来たことを悔んだって、どうしたってしょうがないです。もうすでに前の世から出来ていることですから。だから今、一瞬一瞬いいことを思い、明るいことを思い、世界平和の祈りを祈るのです。それが未来に徳となって現われてくる。今積んでおく善徳というものは未来に向かって花が開くわけです。今現われたことを兎や角いっても始まりません。

一遍、仕方がないとあきらめることです。肉体人間に生まれたんだから、初めから仕方がないんです。仕方がないところから始めるんです。俺はこの世に生まれたくなかった、と言ってもこの世に生まれたんだから仕方がないんですよ。会社がいやだ、といっても動めたら仕方がない、一旦あきらめて、サァ今度は、仕方のある方法をやるのです。

一つのあきらめの上に立って、それからお祈りするんです。神様にすべてお任せいたしましょう、神様はこの命を下さったんだし、この生活や環境というものは自分が過去世で作ったんだから、仕方がない。ブツクサというのは止めて、サアこれからいいものを創りましょう、この世界は自分が創ってゆくんだから、いいものを創りましょう、というんで、いいことばかり想う練習をするわけです。いいことを思えるようになるために、お祈りをし、統一をするんです。

不平不満の想い、暗い想い、悪い想いが出たら、ああ消えてゆく姿だ、といって、神様に消してもらうわけです。これは消えてゆく姿だ、神様有難うございます、世界人類が平和でありますように、といって、神様の大光明の中へどんどん入れちゃうのです。世界平和の祈りに入れちゃう。そうすると、救世の大光明の中でどんどん消されてゆくわけですよ。悪いものがどんどん消えていって、あとに残るものは何かというと、世界人類が平和でありますように、みんなの天命が完うされますように、という深い深い愛の心だけが残るんですよ。愛の心だけが自分の潜在意識の中にズーッと入ってゆく。それをやりつづけていけばきれいなきれいな魂になるわけです。

そうすると、本体の自分と同じになる。光明燦然たる神界にいる自分と全く一つになってしまえば仏様。全く一つになるまでいかなくとも、かなりきれいになって来ます。そうすると自分もいい生活が出来るし、世の中のためにも自然になる、とこういうことになるわけです。

五井先生のご著書『我を極める』

「神界の自分との一体化」 P.32 - P.50